

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

八 女

高等学校

74

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>知・徳・体の調和のとれた、地域で活躍できる人材を育成する学校 探究的な学習活動や学校行事、部活動を通じて全人教育を行い、大学進学をはじめとする生徒一人一人の希望進路実現を図り、地域社会に貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自立的に判断し、行動できる。 2 物事を多面的に探究できるとともに、周りと協働して課題解決を進めることができる。 3 礼節を重んじ、他人を思いやることができる。 4 高い社会性を持ち、地域や社会で活躍できる。
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の充実を図るとともに、適切な観点別評価を実施し、生徒一人ひとりの良い点を伸ばす。 2 総合的な探究の時間を通じて、地域や社会の課題と向き合わせる。 3 主体性・創造性・他者理解・批判的思考力・構想力・見通す力・コミュニケーション力・自己調整力の8つの 資質能力を培う魅力ある教育活動を実践する。
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 志を高く持ち、主体的に行動できる人 2 知的好奇心に富み、学力優秀である人 3 部活動、生徒会活動等において学校の活性化等に寄与できる人 4 地域や社会に貢献しようとする意識が高い人

学校運営計画(4月)			評価 (総合)
学校運営方針	年度重点目標	具体的目標	
<p>昨年度の学校満足度調査の結果を見ると、生徒と保護者の間にやや差が見られる項目はあるものの、多くの項目で高い評価を受けており、年度重点目標は概ね達成できたと考えられる。</p> <p>今年度は生徒の自立的、主体的行動をより一層促し、「自ら学び、挑む」ことができるよう、指導体制を整えることで、「知徳体」の調和がとれた、地域や社会で活躍できる人材の育成を目指す。</p> <p>また、各種教育活動において「良いもの」を持続していくことができるような仕組みづくりを模索するとともに、生徒たちの日々の頑張り、本校の良さを随時発信していく。</p>	<p>「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させ、これらを活用し課題を解決するために必要な「思考力」や「判断力」「表現力」等を育成する。とりわけアウトプットの能力(表現力)の育成を重視する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い授業を行うとともに、効果的な考査問題の作成に努める。 ○観点別評価については「指導と評価の一体化」を目指し、検証に努める。 ○「深い学び」につなげるためにアウトプットの機会を多く設ける。 	<p>A</p>
	<p>「自己有用感」や「自己存在感」を感受させることを通じて、生徒自身の「自己肯定感」を育み、「自己指導能力」を身につけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が「自分も一人の人間として大切にされている」と実感できる機会を敢えて設ける。 ○他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決定できる能力を育成する。 	
	<p>学校への帰属意識を高めさせるとともに、明朗な精神と積極性を大切にさせる。また、自他を認め合う共感の人間関係や、相互扶助的な人間関係を構築する能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○何事にも明るく、積極的に取り組もうとする姿勢を評価し、支援する。 ○「間違えることや失敗することを恐れない」学校文化を構築する。 ○自他を認め合う人権尊重の精神や「いじめ」を許さない精神を育成する。 	
	<p>広報活動については、迅速・的確を旨とし、本校生徒の良さ、本校の良さを中学生や地域に向けて発信していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○HP等については、ことある毎に更新し、適宜外部への情報発信に努める。 ○できうる限り、生徒を前面に出した広報活動を行っていく。 	
<p>本校の存在意義を地域と共有し、地域から期待される、信頼される学校をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の本校に対する教育的ニーズを的確に把握し、その期待に応えることにより、地域から信頼され、期待される学校作りに繋げる。 		

自己評価						学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務	授業改善を推進し、ブランドデザインで挙げられている「8つの資質・能力」の育成を図る。	学習指導要領の趣旨を踏まえ、3観点による観点別評価を確実に実施し、授業改善につなげる。	・学校満足度調査より、正課授業で自分の学力を高められていると98%の生徒が、また、定期考査の問題内容が自分の学力を高められていると94%の生徒が回答している。	A	A	・3観点による観点別評価が定着しており、生徒の授業満足度は高い。授業アンケート結果を基にした研修課による職員研修でも更なる授業改善について話し合われており、今後さらに授業改善をすすめ、生徒の学習改善に繋がるよう行っていきたい。考査問題も共通テストを見据えた思考力・判断力等を伸ばすため工夫した問題作成となっており、今後も作問の工夫を続けていく。	A	○授業の様子を見ても、八女高の生徒は顔をあげて真剣に授業に臨んでいる。先生方もICTを有効に活用し熱意ある授業を実施している。
		単元(学習内容のまとまり)ごとに学習の振り返りを行い、主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、指導と評価の一体化を図る。		A				
		考査問題の質を向上させ、定期考査の学習が学力の向上につながるようにする(国語・地理歴史・数学・理科・英語の考査問題については、思考力や読解力育成に資する出題を1割以上行う)。		A				
	生徒の自学力を高め、家庭学習を質・量ともに充実させる。	各教科において、シラバスを活用して学習の目的、内容、学習方法、評価の観点についてのガイダンスを適宜行うことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・学校満足度調査により、予習・復習が定着していると答えている生徒が8割弱で、保護者の解答は7割弱となっている。	A	A	・昨年度に比べ、予習・復習が定着していると回答している生徒は増えている。将来を見据えた生徒の自己調節力や見通す力をつけるためにも、生徒の学習改善を念頭に置いた授業改善が必要である。	○授業と家庭学習をつなぐ指導の必要性を感じている。	
企画広報	職員間や保護者との連携を促進しながら活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを密にし、学校行事等が円滑に運営できるよう支援する。	・学校満足度調査より始業式等が円滑に実施(生徒79.7%)。PTAの活動が充実(保護者89.8%)。八女高だよりやホームページ、SNSで行事の様子が伝わる(生徒88.2%、保護者89.8%)	B	A	・始業式等をZoomで実施する際に、情報課に協力していただくことで、以前よりもスムーズに接続や実施ができるようになった。今後は、通信環境に応じて速やかに対応できるよう情報課や事務室と連携を強化していきたい。 ・PTA、保護者との連携を今後も継続したい。 ・より迅速かつ充実した広報活動を行いたい。	A	○八女高のホームページやインスタの更新の頻度も上がり、充実してきた。 ○素晴らしい取組を行っているが中学生や保護者に伝わっていない部分がある。広報活動に工夫が必要。
		職員・PTA役員・保護者間の連携を密にし、PTA活動が充実するよう支援する。		A				
	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対する広報活動を充実させ、魅力的な八女高校の姿を発信していく。	「八女高だより」や看板・横断幕、ホームページ、SNS等を活用したりすることで、八女高生の活動の様子を迅速かつ頻繁に紹介する。	・中学生体験入学アンケートより、「参考になった」や「興味がわいた」の回答割合:学校紹介の動画(99%)、交流会(100%)、模擬授業(95%)	A	A	・中学生への八女高校アピールがより効果的になるよう、「八女高みらい委員会」との連携を強化したい。 ・中学生体験入学は大変好評だったが、教務課や生徒会等と協力して、さらなる開かれた八女高校作りに努めたい。	A	○PTA活動も円滑に活動できている。
		中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、生徒募集に繋げる。		A				
中学生体験入学の内容を充実させ、中学生・保護者に対し、本校の教育活動への理解を図る。		A						
生徒指導	状況を把握し、主体的に行動することができ自律した生徒の育成	在学中に成年年齢に達することを踏まえ、学校生活内外での教育活動を通して、ルールやマナーの大切さを理解させ、規範意識を向上させる。	・ルール、マナーが守れている生徒(99%) ・生徒会活動、学校行事のやりがいを感じている生徒(97%) ・校則が適切だと考える保護者(89%)	B	A	・学校生活や行事に主体的に取り組む生徒が多く、活動を通して規範意識の向上や自立した生徒の育成につながっているものとする。今後も生徒の考えを踏まえ、寄り添い、卒業後の生活を見据え丁寧に関わりをもつよう心がけたい。	A	○多くの生徒が学校行事で実行委員等を務めるなど、主体的に取り組んでいる。 ○大運動会やときわ祭(文化祭)での生徒の生き生きとした姿が印象的であった。
		生徒会活動や各種委員会活動、学校行事の運営に、生徒一人ひとりが積極的に参加できる環境を整える。		A				
		年度初め等の個人面談により生徒理解に努め、個々に応じた自主性や自律性を喚起する。		A				
	謙虚で直向きな姿勢で物事に取り組む、思いやりや感謝の心を持つ共感的な生徒の育成	授業や清掃活動等、日々の学校生活に真摯な態度で臨ませることにより、生徒間・生徒教師間の信頼関係を構築させ、謙虚・感謝の心を育成する。	・学校行事でのやりがいを感じている生徒(97%) ・学校行事での充実度保護者(95%) ・学習環境の満足度生徒(満足97%)	A	A	・毎日の学習活動を中心とする関わりの中で、生徒との信頼関係の構築を図り、コミュニケーション力の向上に導いていきたい。 ・部活動においては、ここ数年、加入率が徐々に減少傾向にある。校是である「文武両道」を実践できる環境づくりに努めていきたい。	A	○本校に限らず、生徒指導の統一性と柔軟性のバランスをどうとるかが課題である。 ○もっと中学校と連携することで相乗効果が生まれるのではないかと、中学校も八女高もさらなる成長が期待できると思う。
		「立ち止まって挨拶」「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、相手に伝わる心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。		B				
		部活動を通して自己指導能力や人間形成を図るため、部活動加入率80%以上を目指す。また、部活動等における上位大会出場を目指す。(九州大会以上…5部、県大会…12部)		A				
安心・安全な環境を整える安全管理	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して、加害者側の可能性も含めた指導を行う。	・生徒指導に関する講演会から学ぶこと生徒(99%) ・学校生活をおとして社会人としての土台構築満足度3年保護者(94%)	B	B	・自分や周囲を大切に考えることについては、教育活動全般の中で、適宜働きかけようとしていく。今後も職員間や保護者との連携を大切に、情報共有に努め、粘り強く、丁寧に指導していきたいと考えている。 ・生徒と保護者が安心・安全に学校生活を送ることができるように、緊急時の対応についても全職員で繰り返し確認していきたい。	A	○自転車運転に対する反則通告制度(青切符)については、違反事例を収集し、データベース化を図ると効果的な指導に繋がるのではないかと。	
	人権教育やいじめについて、日々のホームルームや集会等を通して、相手の立場や気持ちに寄り添い、尊重することを学ばせ、自他を大切にしたい思いやりの心を育成する。		A					
	部活動や学校行事における事故・ケガの防止や早期対応のための能力を育成する。また、不審情報の速やかな提供等、危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。		B					

						学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健	生徒の心身の健康の保持増進	学校保健安全の行事や活動を通して、心身の健康に関係を持ち、正しい知識を学び、自ら行動できる能力の育成と実践力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みや心配事などを職員へ相談できる環境であるか 生徒(満足86%) (あまり思わない11%) 保護者(満足76%) (あまり思わない20.8%) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会や行事ごとに注意喚起を行い、指導あたってきた。自ら考えて行動していくために、繰り返しの働きかけを今後も継続していきたい。 ・保健室利用については、養護教諭と担任や学年、保護者と連携して対応するように努めた。SC、SSWとも連携をとり、カウンセリングが必要な生徒については、フィードバックの時間を毎回確保し、情報の共有を図っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、教育相談の充実に努めて欲しい。 ○配慮が必要な生徒については、学校全体で情報を共有し、組織的に対応することが重要であり、これからも学年や部活動間の連携をお願いしたい。 ○トイレをはじめ清掃が行き届いている。非常にいい学習環境である。
		担任からの相談や学年会等での事業については連携して対応する。また、教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」や「配慮を要する生徒」に関する情報を職員間で共有し、対応について協議を行い、その対策については、学校全体で組織的にあた		A				
		スクールカウンセリングや健康教育推進事業(性と心の健康相談)、訪問相談等を計画的に実施し、学校医やSC、SSWの指導・助言を受けながら、関係職員や関係機関と連携し生徒や保護者の支援に当たる。		B				
	学校安全及び環境衛生の整美	生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガの対応・説明 生徒(満足98%) 保護者(満足94%) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や部顧問から保護者に速やかに連絡を取るなど、学校としてできる範囲での対応を心がけた。今後も、よりよい対応について保護者の方々の意見を伺いつつ、改善に努めていきたい。 ・学校環境検査は適合であった。 	A	
委員会活動の活性化	生徒が活動できる場と環境をつくる。	学校清掃状況満足度 生徒(満足97%) 保護者(満足97%)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もワンヘルズ教育に意欲的に取り組んだ。保健委員が中心となり、ワンヘルズフェスタにも出店、収益金を動物愛護団体に寄付することができた。 	A		
	委員会活動をとおして、個々の潜在能力を生かし、主体的に行動できる生徒育成を目指す。	A						
キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度調査によると、生徒93.5%、保護者83.4%が、本校のキャリア教育が進路について考える上で役に立ったと回答している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年・分掌・業者等と連携し、効果的な「進路講演会」「進路ガイダンス」を実施することができ、生徒の進路意識高揚につながった。2年次の総合的な探究の時間「ちきゅうみらいプロジェクト」では、産官学交流を旨とした探究活動を行い、積極的にフィールドワークを行うなど、学びを深めることができた。次年度も、最適な提携先の開拓など効果的な探究活動を工夫していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○課外授業を実施する趣旨を丁寧に説明するとともに、個別の指導やガイダンスが必要となる。今後も生徒の希望進路につながるよう積極的に指導を行って欲しい。 ○個別最適な学びと深く考えさせる取組を推進し、それが将来への土台作りとなるようにお願いしたい。
		「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「ちきゅうみらいプロジェクト」を体験させることで、主体的に自分の進路について考えさせる。		A				
		生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行い、職員間で共有する。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携して「ポートフォリオ」、「キャリア・パスポート」を入力させる。		A				
	課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。	生徒の進路希望完全実現を図るために、課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度調査によると、生徒の88.4%、保護者の77.0%が、課外・長期補習・土曜セミナーが学力の伸長につながったと回答している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後課外は、1、2年生は週3日、3年生は週5日、希望制で実施した。1、2年生の課外は難関大対策や英検取得対策として、土曜セミナーは模擬試験対策として実施した。生徒の満足度が昨年度より3.7ポイント下がっており、より模擬試験や進学結果につながるよう工夫することが必要である。 	A	
公務員試験を受験する生徒の進路希望実現を図るために、2年生2学期期末考査後からの公務員課外、3年生公務員早期課外や公務員専門学校と連携した公務員専門科目・面接対策を企画・実施する。	A							
情報	一人1台端末を授業や家庭学習に活用できるよう、教員のスキルアップを図る。	校内外での活用事例を収集し、それを閲覧する環境や研修会を企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度調査によると、生徒の91.6%、保護者の79.9%が、効果的な教材の提供ができていてと感じている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストがWEB出願になるなど、入試関連の手続きや情報提供の紙からデータへの転換がますます進んでいる。授業での活用も含めて、生徒は十分に対応できているが、教員側のスキルアップは常に必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット等のICTを活用しての授業が数多く行われており、情報化への対応が進んでいる。 ○今年度からスタディサプリからClassiに変更したとのことだが、生徒の満足度が低いのではないかと。生徒がその有効性を感得し、自ら積極的に活用するような指導をして欲しい。
		教員とICT支援員とのパイプ役を担い、授業へのICT活用について相談しやすい環境をつくる。		A				
	校務支援システムや各種業務のICT化について、業務のスリム化に繋げると共に、誰でも扱えるようにする。	校務支援システムについては、教務・進路・保健等の各担当者が業務に取り組めるようなシステム設定やサポート体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度調査によると、生徒の36.4%、保護者の63.3%が、Classiを活用した個別学習ができたと感じている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化による業務のスリム化は進んでいる一方、高度な知識が求められる業務については一部の教員に負担がかかっている状況もある。 	A	
		Google ClassroomやFormsなどの活用については、各担当者が実務を担えるようなマニュアル作成等のサポート体制を充実させる。		A				
Classi活用の充実を図る。	一人1台端末を使ったClassiの利用を通して、更なる活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度調査によると、生徒の36.4%、保護者の63.3%が、Classiを活用した個別学習ができたと感じている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Classiは導入初年度であり、教員および生徒への浸透がまだまだ十分ではない。生徒の活用が昨年度より少し下がっている。情報提供や研修を充実させる必要がある。 	A		
個別最適化された学びの実現に繋げるため、スタディサポート・運動課題配信・外部模試等と連携する方法を周知し、Classiの活用を促進する。	B							

		自己評価				学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
研修	教員のキャリアとニーズに応じた研修の充実を図る。	「Find! アクティブラーナー」を活用し、職員一人一人のキャリアやニーズに応じて研修ができるような環境を整える。	/	A	A	・職員研修を4回(生徒把握、いじめ、危機管理、Classi活用、人権教育、授業改善等)実施し、組織としての情報共有や、職員全体のスキルアップに繋がった。さらに学校のニーズに合わせた研修を計画していく。	A	○多くの先生が研究授業を実施し、相互に見学できることは素晴らしいことであると思う。年度ごとに研究テーマを設定し、授業のあり方について議論することは結果的に生徒のニーズに繋がっているのではないか。
		「Find! アクティブラーナー」の視聴による個人研修の成果を授業改善シートに記入し、学校全体で共有する場を職員研修で設け、組織的な授業改善を図る。						
	年間を通じたマネジメントサイクルを取り入れることにより、組織的な授業改善を推進する。	学校独自の授業改善シートを活用することにより、マネジメントサイクルに基づいた授業改善を推進する。	・授業アンケートを通して、それぞれの授業に対する生徒の捉え方を確認し、授業改善に生かすことができた。	A	A	・若年教員を中心に、各教科で代表者の研究授業を実施・相互参観し、さらに意見交換会を行い、全体の授業改善に向けた議論を交わした。また、授業アンケートの結果を踏まえ、職員研修で魅力ある授業構築について考察した。特に今年度は、「アウトプットの能力(表現力)を育成する授業」をテーマとし、授業スタイルについて深めることができた。		
		Google Formsを活用して授業アンケートを実施し、それぞれ、取り組み指標及び検証指標の作成、成果と課題分析のための情報収集の支援を行う。		A				
第1学年経営	基本的な生活習慣を確立させ、学校に居場所を作る。	自身の「体調管理」、自身に関わる「時間の管理」を自分で行うことの意義を伝え、日々の生活の中で意識して実践させる。	・学校満足度調査において、自己管理の意義を理解し生活できている生徒が88%(保護者76%)であった。	A	A	・年度を通して生徒が始業開始5分前着席を守れており、学年全体が落ち着いた雰囲気の中で学校生活に臨んでいる。2、3年生での学校生活に向けて、引き続き「体調管理」、「時間の管理」を自分で行うことの意義を伝え続け自立できる生徒の育成を図りたい。	A	○基本的な生活習慣がしっかり身についている。 ○学年全体で情報を共有しながら生徒と向き合い、丁寧な指導を行っている。3年間のビジョンを持ちながらしっかりと生徒を導いてほしい。 ○学校満足度調査で「自己管理の意義を理解し生活できているか」という質問に対する生徒と保護者の回答に約12%の差がある。
		安全な登校、落ち着いた学校生活のために始業開始5分前着席、準備を促す。		A				
	自己肯定感を高め、自他を尊重できる人間を育成する。	生徒の成長を職員間で共有し、生徒を褒める機会(時間・場所)を多く作ることで生徒の自己肯定感を高める。	・学校満足度調査において、学校行事や部活動、校外活動への積極的な参加ができている生徒が92%(保護者88%)であった。	A	A	・毎日の学年職員朝礼やその他の職員室内での時間を使い生徒の活躍を職員間で共有し、HRや学年集会において生徒と共有することができた。今後は学年集会等において指揮や進行を生徒に任せるなど、さらなるリーダーシップの育成を図りたい。また、学校生活アンケートにおいても生徒の前向きな姿勢が見られた。相談等は引き続き、丁寧な対応を心がけたい。		
		部活動や校外の行事への積極的な参加を促し、活躍の場を作ることで、人間関係構築力や状況判断力、リーダーシップの育成を図る。		A				
	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	学習の面白さを理解し、授業を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得することで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。(自習室利用の推進)	・学校満足度調査において、「総合的な探究の時間」を通して社会問題への関心を高め、探究活動の手法等を身に付けることができた生徒が96%であった。	B	A	・進路決定という目標に向けて、日々の授業の大切さを学年全体を通して伝えることができた。自習室や休日の学校の利用については今後は積極的に進める必要がある。「総合的な探究の時間」における課題探究は、2学年での発展的な探究活動に向けて土台作りを引き続き行いたい。		
		「総合的な探究の時間」を通して社会問題への関心を高めるとともに、課題発見力や探究活動の基礎的な方法を身につけさせる。		A				
第2学年経営	人間力と社会性を育成し、八女高のリーダーとして自覚ある行動をさせる。	八女高の中軸の学年であることを理解させ、学校行事に責任を持って積極的に取り組ませることで、行動力や的確な状況判断力を養い、リーダーの育成を図る。	・学校満足度調査において、学校行事でやりがいを感じている生徒が97%、ルールやマナーを守ることができている生徒が99%であった。	A	A	・中軸の学年として学校行事や部活動等においてリーダーシップを発揮して積極的に活動することができた。次年度の大運動会では実行委員やブロックのリーダーとして全学年を牽引させたい。 ・挨拶の励行やルールとマナーの順守については、次年度も指導を継続する必要がある。	A	○「ちきゅうみらいプロジェクト」は、昨年度に引き続き経済同友会の支援を受け、「学び方を学ぶ」という探究の基礎を習得する活動として評価できる。活動内容をホームページやSNSを通じてもっとアピールしてはどうか。 ○大運動会や修学旅行等の学校行事とおして生徒たちが大きく成長したとのこと。この経験を3年次に活かし、あらゆる場面で八女高校を牽引してほしい。
		八女高生としてふさわしい服装・頭髮、心のこもった挨拶や場に適切な言葉遣いができるようにするとともに、ルールやマナーを遵守させることで規範意識を高める。		B				
	進路実現のために、基礎学力の定着を図るとともに応用力も身に付けさせる。	思考力・判断力・表現力等を育成するため、指導内容・指導方法の工夫を図り、質の高い授業を行うとともに、効果的な考查問題の作成に努める。	・学校満足度調査において、正課の授業で自分の学力を高めることができてきた生徒が98%、進路講演会等は進路について考える上で役に立った生徒が94%であった。	A	A	・授業では、各教科担当が指導内容・方法を工夫して生徒の学力を向上することができた。また、進路目標が明確になった生徒も多く、少しずつ意識や行動が変わってきた。次年度は、進路目標を達成するためにHRや進路講演会等で学習意欲の向上に努める必要がある。		
		学力に応じた個別最適な学びを通して、主体的に学習に取り組む態度を育成し、基礎基本の定着を図るとともに、応用力も身に付けさせる。また、HR・学年集会・個人面談で大学入試等の進路情報を的確に伝え、目標を明確にすることで、学習意欲を向上させる。		A				
学校生活を通して自己尊重の精神を育成し、自己肯定感を高める指導を行う。	他者の個性や主体性を尊重しながら、自らの行動を決定できる能力を育成する。また、生活規則の確立や体調管理等、自己管理能力を高め、出席皆勤率70%以上を目指す。	・学校満足度調査において、生徒指導に関する講演会から学ぶことがあった生徒が98%、悩み事等を相談できると思った生徒が86%であった。	A	A	・他者の個性や主体性を尊重できる生徒が多いが、人間関係に悩む生徒もいる。様々な理由から遅刻・欠席をする生徒に対しては、担任との二者面談を中心にスクールカウンセリング等も活用しながら対応することができた。次年度も情報を共有しながら個別の指導を行ってほしい。			
学校生活に適応できない生徒を早期に把握し、生徒理解に努めて保護者や養護教諭と連携を図り、学年全体で情報を共有して適切な指導を行う。	A							

自己評価						学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
第3学年経営	何事も素直に前向きにやり通す力や協働の精神の涵養を図り、高い社会性を備え、社会に貢献できる生徒を育成する。	基本的な生活習慣を確立させ安易な遅刻・欠席をせず、全教育活動を通して粘り強く努力が出来る。心身ともに逞しい生徒の育成を目指す。	・学校満足度調査において、学校生活を通して、社会を生き抜くために必要な力を理解し、社会人としての土台を築くことができた生徒が100%(保護者95%)であった。	A	A	・受験のプレッシャーから気持ち不安定になる生徒も見受けられたが、家庭と連携を取り、教員間で情報を共有しながら支援することで、生徒は粘り強く努力を続けられていたと感じる。受験を通じて、逞しい成長を遂げてくれた。今後も、一つひとつ目の前のことに着実に取り組み、やり通すことで、生徒に自信をつけさせたい。	A	○講演会等での話を聴く態度が素晴らしい。 ○「ちきゅうみらいプロジェクト」が生徒たちのキャリア形成・希望進路の明確化に繋がっている。今後も教科指導等とバランスを取りながら推進してほしい。 ○明確な進路に向けてほとんどの生徒が必死に勉強している姿が印象に残った。 ○進路が決定した生徒が決定していない生徒へ最大限の配慮がみられる。	
	自己の在り方・生き方についての自覚を深め、経験を通じて確かなキャリア形成を図り、一人ひとりの希望進路実現を目指す。	「総合的な探究の時間」をはじめとするあらゆる授業の探究学習を通して、自己の在り方・生き方に照らし、自己のキャリアの方向性と関連付け、高い志を抱くことで、希望進路を明確にする。	・学校満足度調査において、「総合的な探究の時間」を通して将来に展望を持って、進路実現に必要な力を伸ばしてきた生徒が92%(保護者80%)であった。	A					B
	学校生活を通して自他の良さに気付かせ、生徒の自己肯定感を高めることで、自信につなげる。	最高学年としての高い意識を持ち、学年行事等の実体験を通じて、リーダーシップおよびフォローシップを育み、生徒相互のリレーションシップの向上を目指す。	・学校満足度調査において、学校行事や部活動、校外活動への積極的な参加ができていた生徒が97%(保護者96%)であった。	A	A				・大運動会を通して学年が団結し、生徒一人ひとりがリーダーシップやフォローシップを大切にすることで、下級生を率いて大運動会を成功に導くことができた。この経験を通して、生徒の自己肯定感が高まり、自信につなげることができた。今後も、様々な経験を大事にし、成功や時には失敗から学ばせたい。
	学校行事やボランティア活動などに積極的に参加させるとともに、外部機関と連携し講演や活動などの様々な体験を通して、自他の良さに気付かせ、生徒一人ひとりの強みを引き出し、伸ばすことができるようにする。			A	A				
事務	電話応対・来客接遇の向上を図る。	電話応対や来客対応において、相手の立場に立った丁寧な対応を心掛け、接遇の向上に努める。	/	A	A	・来客や電話の応対や施設の維持管理等、生徒や職員が教育活動に集中できるよう、しっかり対応することができた。ただ、物価をはじめ、様々なものの価格が高騰しているため、更なる節減に努めていく必要がある。	A	○引き続き丁寧な対応をお願いしたい。	
	施設・設備の適切な維持管理を行う。	定期的な校内巡視を行い修繕等必要な箇所等を把握するとともに、必要に応じて予算要求を行い適切な施設の維持管理に努める。		A					
	効果的な予算執行を行う。	職員に対して節電、用紙の節約等呼び掛けることで経費の節減を図り、教育活動充実のための効果的な予算執行に努める。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>○県立高校の魅力や特色をあらゆる機会をとおして中学生にPRするとともに、高校入試制度の趣旨を十分に踏まえつつ、志願倍率の向上を目指す。</p> <p>○教員間で連絡を密にしなが、コミュニケーションを十分にとりつつ組織的な教育活動の実践する。</p> <p>○職員間で生徒の情報を共有し、外部の専門家とも連携しながら不登校や不適応を減らす。</p> <p>○本校の強みと生徒、保護者、地域のニーズを見極め、目標達成のために全職員で共通認識をもって取り組む。</p> <p>○生徒の主体性を発揮させる場面を多く設定し、失敗を経験させながら人として成長させる。そのことを学校としての活性化につなげる。</p>
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
○変化が激しい現代社会において、八女高校が長い伝統の中で創り上げた「不易」の部分は、これからも大切にして欲しい。	